

# アジアと日本のつながり

## 世界遺産を探そう！

アジアにはたくさんの国々があります。日本も、その一員。今月は日本とアジアのつながりを見てみましょう。一回目は、ベトナム、カンボジアなどメコン川流域の国々のようすを世界遺産を通して紹介します。

今月のテーマ

### アジアと日本のつながり

1時間目	世界遺産を探そう！
2時間目	アジアを旅する渡り鳥
3時間目	鳥インフルエンザって？
4時間目	「海の道」のお話

### ラオス ルアンブラバン

ラオス中部にある古都。1975年まで王家がありラオスを支配していました。仏教の寺院がならぶ静かな都市ですが、95年に世界遺産になると多くの観光客がおとずれるようになりました。

### ベトナム ホイアン

ベトナム中部にあるホイアンは、16世紀末ごろから国際貿易の港として栄えた町です。当時は、日本人街もあって多くの日本人も住んでいたようです。町の中心にある日本橋は、今も使われています。

### カンボジア アンコール遺跡群

9世紀から15世紀にかけて栄えたアンコール王朝によってつくられた仏教、ヒンドゥー教の寺院を始めとする巨大な遺跡群です。カンボジア北西部シムリアップという町の周辺に広がる広大な遺跡です。

町には空港、道路、ホテルなどができ、日本を始め世界各国からたくさんの観光客がおとずれます。遺跡は風雨にさらされてこわれかけるなどして、修復がすすめられています。

### タイ アユタヤ

タイのアユタヤは、14世紀から18世紀にかけてアユタヤ王朝の首都として栄えた町です。徳川家康の時代には、日本人町もあったそうです。18世紀にビルマ（ミャンマー）との戦争で破壊されましたが、日本を始め各国の協力で修復されています。

**調**つてみよう！  
今回紹介したベトナム、カンボジア、ラオス、タイ、ミャンマーの五か国と、中国の雲南省は「メコン地域」と呼ばれ、おたがいに協力しあって経済的に発展していこうと計画しています。この地域には、今回紹介した四つのほかにも世界遺産があるよ。どんな世界遺産があるか調べてみましょう。



## もっと知りたい！



### 国を結び、人や物を運ぶ道路と橋

世界には日本とちがって、陸上で国境を接している国が多くあります。こうした地域ではほかの国に行くのには飛行機や船のほかには道路が重要です。

今回とりあげたメコン地域の国々も川などが国境になっています。この地域では今、国と国を結ぶ道路をつくって、人や物の行き来をふやしおたがいに発展していこうという大きな計画があります。



上の写真は、タイとラオスの間を流れるメコン川にかかる橋です。二〇〇六年十二月に完成しました。日本とタイとラオスが協力してつくった橋です。

写真をよく見てみると、橋の向こう側で道路が交差していることが分かります。ラオスでは車は道路の右側を走りますが、タイでは日本と同じように左側を走ります。だからラオスからタイに入るときに車が左側を走るように工夫されているのです。

文化も風習も国によってちがいますが、道路などによってちがう国の人々が交流し、地域全体が発展する可能性が生まれているのです。

# にほん アジアと日本のつながり

## アジアを旅する渡り鳥

アジアの国々と日本の深い結びつきを紹介するシリーズの二回目。今回は、国境を越えて旅する渡り鳥から、環境面でのつながりを考えてみましょう。春になると、軒先などに巣を作りヒナを育てるツバメ。秋になると、いつの間にかいなくなってしまいます。いったいどこへ行くのでしょうか？

今月のテーマ

アジアと日本のつながり

1時間目	世界遺産を探そう！
2時間目	アジアを旅する渡り鳥
3時間目	鳥インフルエンザって？
4時間目	「海の道」のお話

## やって来たのはボルネオ島

日本を飛び立ったツバメの旅先の一つが、東南アジアのボルネオ島。日本の約二倍の広さの島で、マレーシア、ブルネイ、インドネシアの三か国にわかれています。

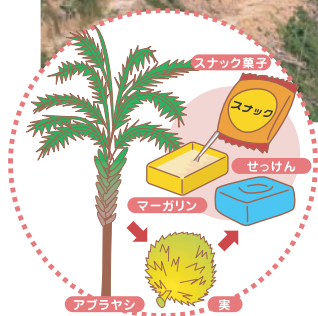
日本が寒い冬の間、ツバメはあたたかいボルネオ島で過ごし、春になるとふたたび日本へやってくるのです。

## 減り続けるジャングル

下の写真を見てください。ボルネオ島のマレーシア側で木が切られ、むきだしの地面がのぞいています。昔ボルネオは一面ジャングルでしたが、外国に材木を売るために木を切り出し、その後にはアブラヤシ(左下イラスト参照)が植えられました。

アブラヤシの実からしぼった油は、マーガリンやスナック菓子、せっけんなど、わたしたちの身近な品々にたくさん使われています。

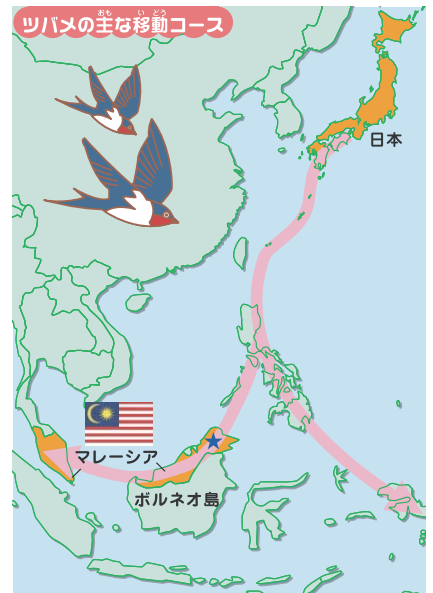
切り開かれるボルネオのジャングル



## 国をこえて影響が

森が減ると虫がいなくなり、それを食べるツバメも生きられなくなります。ゾウやオランウータンもすむところがなくなります。雨が降れば土砂や農薬が川に流れ、よごれた川では魚が減り、漁師さんも生活できなくなります。

アジアの国々をツバメが飛来するには、日本やボルネオだけでなくすべての国々の環境が大切です。アジアのみんなが協力して、きれいな空気と水、豊かな森を守ることが必要なのです。



### しらべてみよう

- ① ツバメのほかに、日本ではどんな渡り鳥が見られるかな？ どこから来て、どこへ行くのかな？
- ② アジアの国々では、どんな環境問題があるのかな？ 日本とのかかわりはあるのかな？

## もっと知りたい!



## 住民たちと共に守るボルネオの自然

ボルネオの自然を守るため、JICAは現地の役所の人、大学の先生、村人たちと協力して、さまざまな活動をしています。環境をこわさないような経済の発展を目指しています。

例えば、自然に親しむ旅行の提案も取り組みの一つ。訓練を受けた村人たちが案内役となり、観光客にボルネオの自然や文化を体験してもらうことで、木を切らなくても地元にお金が入るようになりました。

また、村人たちはどこでどんな動植物を見たのか役所に伝え、役所や大学は調査を行い、自然を守るための計画を立てています。アブラヤシ農園の会社も、動物がくらす川沿いの森は保存するなどして協力しています。

# アジアと日本のつながり

## 鳥インフルエンザって？

インフルエンザが流行中です。みなさんの中にもインフルエンザにかかったり、学級閉鎖で学校がお休みになったりした人がいるのではないのでしょうか。今回は、インフルエンザからアジアと日本のつながりを見ていきましょう。

今月のテーマ

アジアと日本のつながり

1時間目	世界遺産を探そう!
2時間目	アジアを旅する渡り鳥
3時間目	鳥インフルエンザって？
4時間目	「海の道」のお話

## 鳥がかかる病気 世界に広がる

人間がかかるのは「ヒトインフルエンザ」ですが、ここ数年、鳥がかかる「鳥インフルエンザ」が大きなニュースになっていますね。二〇〇三年にアジアの国々で発生し、ヨーロッパなどにも広がっています。

日本でも二〇〇四年に山口県、大分県、京都府にある農場で鳥インフルエンザにかかったニワトリが見つかりました。日本では七十九年ぶりの発生でした。ウイルスが広がるのを防ぐために、たくさんのニワトリが処分されました。

ウイルスは渡り鳥が運んできたとも考えられていますが、はっきりとした原因は分かっていません。

## 心配なのはウイルスの変化

鳥インフルエンザのウイルスは、まれに人にうつることがあります。ベトナムやインドネシアを中心に患者が増え、トルコやエジプトなどをふくめると世界では二百人以上が亡くなっています（地図参照）。

今、心配されているのは、鳥インフルエンザのウイルスが人から人へうつる新型のウイルスに姿を変えることです（イラスト参照）。新しいウイルスなのでだれも免疫（病気のもと）をやっつける体の働きがなく、大流行することが心配されています。

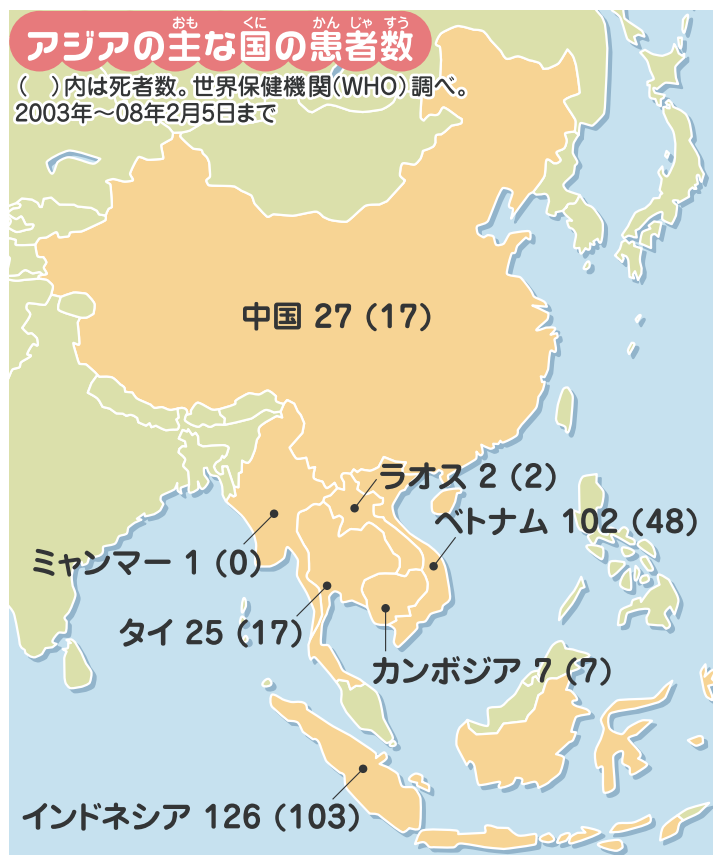
## アジアの国で専門家を育てる

アジアの国々の中には、鳥にうつるインフルエンザのワクチンの対策がおくれている国もあります。また、鳥の病気の診断やウイルスの検査を行う専門家が足りない国もあります。

もしこうした国で、人にうつる新型インフルエンザが発生すると、あっという間に世界じゅうに広がるおそれがあります。一つの国だけでなく、世界の国々が協力して解決しなくてはならない問題なのです。

JICAは、日本からインドネシアに専門家をおくり鳥インフルエンザ用のワクチンの研究を援助しています。また、ベトナムやカンボジアなどの人たちが鳥の病気を診断できるように協力しています。ベトナムでは、人にうつる新型インフルエンザに変化したかどうかをチェックできるように、ウイルスの検査で協力しています。

こうした協力が、アジア、世界の国々の鳥インフルエンザ対策につながっています。



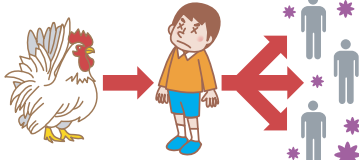
### 鳥インフルエンザ(現在)

- まれに鳥から人へうつる



### 心配される新型インフルエンザ

- 人から人へうつり流行する



# にほん アジアと日本のつながり

## うみ みち はなし 海の道のお話

今回旅する国は、東南アジアの真ん中に位置するマレーシアとシンガポール。ここは世界でもっとも多く船が行き交う場所で、みなさんの身の回りのものがたくさんこの「海の道」を渡って日本にやってきます。でも、この海域には海賊もいて、日本の船もおそわれるなどしています。今回は、この場所で今問題になっている交通渋滞と海賊の問題を見ていきましょう。

今月のテーマ

アジアと日本のつながり

1時間目	世界遺産を探そう!
2時間目	アジアを旅する濃り鳥
3時間目	鳥インフルエンザって?
4時間目	「海の道」のお話

## うみ こうつうじゅうたい かいぞく あらわ 海の交通渋滞 海賊も現れる

マレーシアとシンガポールの近くには、マラッカ海峡とシンガポール海峡という二つの海峡があります。ここを通る船は、年間約九万四千隻。世界一船でこみ合っている海峡で、また今後もっとこんでいくと予想されます。

海でも交通ルールをきちんと守らないと、船どうしの事故が起きやすくなります。日本でも、漁船がイージス艦にぶつければ悲しい事故が起きたばかりです。

混雑した海では、船はゆっくり走りません。こうした船をねらって、海賊による誘拐や強盗事件が起こっています。海賊による被害の発生率も世界一の場所なのです。

「海の道」のまわりの国々には、まずしいくらしをしている人がたくさんいて、生活に困って海賊になる人もいます。

### 日本や中国に物を運ぶ

この海峡は、昔から「海の道」として知られていました。日本や韓国、最近では中国にの経済が発展して、いろいろな物を遠い中東やアフリカからたくさん買うようになり、それを運ぶ船は、ますます大いそがしです。

もし事故が起こって「海の道」がふさがると、物が届かなくなって、日本だけではなく、東アジアの国々はみんな大変なことになります。

### 渋滞の解消に日本人も協力

海の交通渋滞を少しでもよくするために、日本では民間の会社がお金を出して、マラッカ・シンガポール海峡に海の交通信号を設置したり、修理したりしています。

また、最近では、日本の政府も、二つの海峡の交通渋滞をよくし、海賊をとりしめる警察の訓練などを行っています。



海の安全を守る船と人々



## りく みち にんげん せいかつ か 「陸の道」も人間の生活には欠かせない

「海の道」の次は「陸の道」のお話です。道があることは、みなさんにとっては普通のことかもしれませんが、世界には道路が整備されていない国もたくさんあります。「学校に通える」「病院に行ける」「農作物を市場に運んで売ることができる」といったことができるのも、道があればこそ。そこに住む人たちの未来への選択肢を増やすことにつながるのです。

青年海外協力隊としてアジアのスリランカでボランティアをしていた永広あかねさん。住んでいた地域の道路は整備されておらず、村の中を歩くだけでも大変だったそうです。

二〇〇四年にインドネシアのスマトラ沖で地震があったときには、道路に落ちたがれきを拾う活動をしました（写真）。「人々が生活していくのに、道路がどれだけ必要かを痛感した」と永広さんは言います。

